

SIV^{*}パンデミック株侵入農場における フルシュア[®]ERの有効事例

症状が現れていなくても
油断できないのがSIV!



フルシュア[®]ER投与によりSIVパンデミック株(pdm09)感染による影響を軽減し、
斃死率及び出荷日齢が改善した事例について、その概要を報告します。

(井藤 雅子、清水 健太ほか：第7回国際新興・再興豚病学会：102, 2015) ※SIV：豚インフルエンザウイルス

■供試豚及び方法

以下の区分により、同一時期、別豚舎にて飼養。斃死率及び出荷日齢を調査しました。



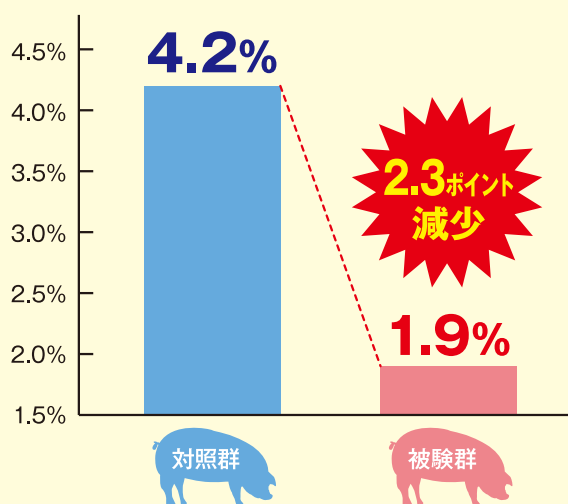
**どちらの群も、豚インフルエンザ様症状は
認められていませんでした。**

[その他の投与ワクチン]

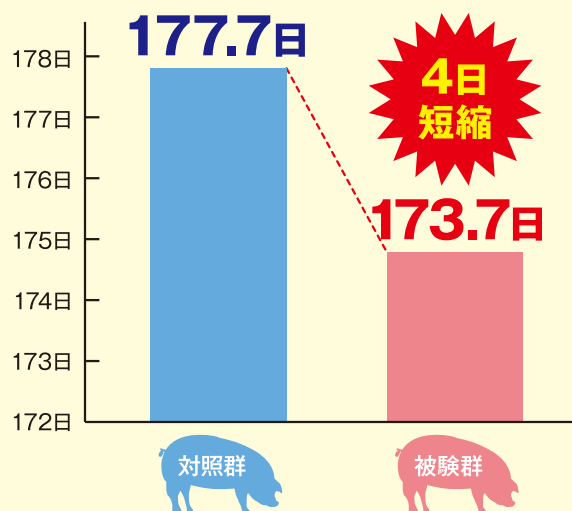
Mhp(1週齢)、PCV2(3週齢)、APP(7週齢、10週齢)を共通投与

■結果

斃死率



出荷日齢



▶豚インフルエンザ様症状が
認められていないにも関わらず、
豚インフルエンザワクチンの
「フルシュア[®]ER」の投与により
生産性の改善がみられました。

■ウイルス分離成績 (陽性頭数/検査頭数)

| | 70日齢 | 80日齢 | 90日齢 | 100日齢 | 110日齢 |
|-----|------|------|------|-------|-------|
| 対照群 | 0/5 | 4/5 | 0/5 | 0/5 | 0/5 |
| 被験群 | 0/5 | 0/5 | 1/5 | 0/5 | 0/5 |

分離株は、いずれもpdm09株でした。

まとめ

- フルシュア[®]ERのH1亜型抗原(ワクチン株)は、
SIVパンデミック株(pdm09)の感染による影響を軽減し、斃死率および出荷日齢を改善しました。
- SIVは臨床症状が認められない場合であっても生産性に影響を与えることが改めて証明できました。